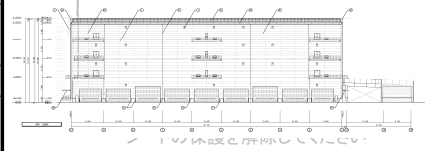


# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	加古川平岡町NKビル 新築工事	階数	地上4F
建設地	兵庫県加古川市平岡町タカハタ352	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年3月4日
敷地面積	16,860 m <sup>2</sup>	作成者	山下 修司
建築面積	8,889 m <sup>2</sup>	確認日	2021年3月5日
延床面積	32,274 m <sup>2</sup>	確認者	井塚 通浩



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.7**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境: 3.2	機能性: 2.7	生物環境: 2.0
温熱環境: 2.1	耐用性: 3.1	まちなみ: 3.0
光・視環境: 2.6	対応性: 4.2	地域性・地域外環境: 2.0
空気質環境: 3.5		

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮の: 5.0	水資源: 3.0	地球温暖化: 4.1
自然エネルギー: 3.0	非再生材料の: 3.6	地域環境: 3.3
設備システム: 5.0	汚染物質: 3.0	周辺環境: 3.0
効率的: 3.0		

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
加古川市に建設される倉庫の計画である。省エネ、省資源に配慮しながら、豊富な植栽を計画し、敷地内温熱環境や利用者の快適性向上を図った施設計画を行っている。	特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 化学汚染物質を使用せず、吸音材を積極的に取り入れるなど、室内環境の向上に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 十分な植栽を確保し敷地内温熱環境の向上にも配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率設備を採用し省エネに配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 削減に配慮しており、適切な数の駐車場を計画し、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。
<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、ゆとりのある計画とし、機能性に配慮している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具の採用やリサイクル材の建材、再利用できるユニット部材(OAフロア)を採用することで、資源の保全に努めている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される